

太陽の都市——『政治学』の付録として

共和政体についての詩趣に富んだ対話で、キリスト教的共和政体を変革する理念を構想する。聖カテリーナと聖ブリジッタに神がなされた約束にも当てはまる。

対話者——マルタ騎兵团〔修道会〕の騎士⁽²⁾（質問者）と、ジェノヴァ生まれでコロンブス⁽³⁾の航海士を務めた男（回答者）。

上陸

騎士 今回の船旅で経験したことすべてを、お聞かせ下され。

ジェノヴァ人 望むところだ。世界を一周してきた様子はもう話したよね。じゃ、次にタブローナ島にどうやってたどりついたか話そう。ぼくは島に上陸せざるを得なくなっただけ、おまけに島のひとたちの怒りにふれて、逃げまどいっつも、森のなかへ入り込んだら、だだっぴろい平原に出た、おまけにそこは赤道直下⁽⁴⁾だった。

騎士 そこでどうしたんです？

ジェノヴァ人 すぐに一群の武装した男女に出遭ったけど、その大部分にイタリア語が通じて、ぼくを「^{チッタ・テル・ソレ⁽⁵⁾}太陽の都市」に連れていつてくれた。

都市の構造

騎士 その都市の構造と政府の形態を教えて下さい。

ジェノヴァ人 都市はね、広大な平地のなかに丘がそびえていて、都市のほとんどが丘の上にあるんだ。丘を囲む市壁ときたら、丘の麓の外に広がっていて、その面積といたら、直径二マイル⁽⁶⁾余り、だから一周、七マイルにはなるんだ。しかもそびえたっているおかげで、平地の人口より都市のほうが多い。

都市はとっても大きな七つの環状に分かれており、七つの惑星の名があてがわれている。そして東西南北に対応する四本の通りと四つの門を、つまり東西南北の門を通って、出入りする。都市がこうした具合に造られているんで、第一の環状が攻撃されても、第二の環状を襲うのはもつと大変になるし、第三の環状も同様だ。こういうふうだから、七回勝利するための攻略が必要になるわけだ。だけどおもうに、第一の環状を落とすことさえ難しいだろう。城壁は堅固で、堡壘、小塔、大砲、さらに外堀が築かれているから。^⑦

ところで豊かな才知をこらして造られた上下に動く鉄製の北門をくぐると、第一の城壁と第二のその間が、歩いて五〇歩^⑧の平地となっているのがわかる。続いて城壁の周囲を歩むと、みな一つとなつて大きな建物^{パツツイ}となっている。そしてその上には半月堡があつて円柱の上に設置されている。まるで修道士の暮らす修道院の回廊のようにね。ここに通じる入り口は建物の窪んだ部分しなくて、また凹凸状の窓のついた部屋がたくさんある。窓と窓の境は小さな壁で仕切られている。凸面の壁だけ八パルマ^⑩もの大きさで、凹面は三パルマ。平均すると二・五パルマかそれ以下だろうな。

次に、第一の平地よりも二歩ないし三步狭い、第二の平地に到着する。目に入るのは外側の半月堡のある第二の壁と散歩をするひとたち。内側の壁、中央の大きな建物を蔽^{おお}っている壁の下部

には修道院風の回廊、上部には美しい絵画がある。

こうして最終的にいくつもの平地を通ってもっとも高いところに到達する。内側の壁と外側の壁の間にある門をくぐるときにだけ、知らぬ間に階段を上がってゆく。というのも階段は傾斜がついていて、しかも一段一段の高さはほとんど気づかないくらいなんだ。

丘の頂には広大な平原があつて、その中央には技巧をつくし切った立派な神殿がある。

神殿

騎士 すぐに続きをお話ししてほしいです。

ジェノヴァ人 神殿は完璧な丸屋根で、周囲はどこも城壁に囲まれていない。太くてとても綺麗な柱に支えられている。神殿の大きなドームの中央には明かり取りのついた小さな丸屋根が一つある。円柱の周りを歩くと三〇余歩で、丸天井の外は歩くと八歩。外壁の凹面の周囲にある椅子の上に建つ壁には回廊がついている。もっとも内側の円柱は、壁なしで神殿を支えており、持ち運ぶのできる椅子も備わっているんだ。

祭壇の上にはとても大きな天球儀があつて、宇宙全体が描かれている。その傍らに地球儀もあ